

# 地域おこし協力隊の拡充は

**答** 活躍の場の拡充に努めます

## 町の活性化のために

**問** 昨今の少子化に伴う生産年齢人口の減少の影響を受け、人材不足により多分野に渡って課題が見受けられます。地域おこし協力隊制度は、このような本町の様々な課題解決に向けた非常に有用な手段であると感じます。例えば、多古米や大和芋のPR、農作業を担うオペレーター、デジタルに特化した人、空き家活用に意欲のある人や地域コミュニティに係る人など、専門的な知見や能力のある人材を本町に招くことが



町を様々な視点から

できますが、今後の協力隊拡充に向けた本町の考えをお示しください。

**町長** 地域おこし協力隊ならではの柔軟な発想や地域活性化に対する情熱と行動力は、本町の地域づくりを推し進める力になっていきます。また、地域おこし協力隊制度は、移住・定住の促進につながることから、今後も本制度を積極的に活用し、地域おこし協力隊の活躍の場の拡充に努めてまいります。

**問** 地域おこし協力隊は地域活性化の担い手となっており、多くの自治体で採用されています。これはすなわち自治体間での人材の取り合いになっていくとも言えます。このような状況の中で、本町としては、人材確保に向けて様々なアプローチを、スピード感を持って取り組む必要があると考えますが、町としてはどのようにお考えでしょうか。

**企画政策課長** 町の地域課題を解決する手段として、地域おこし協力隊制度が有効に活用できる分野であれば、任務やミッションを設定し、地域の方とのコミュニケーションや退任後の定住に向けたビジョンをしっかりと考慮しながら

# 移住コーディネーターの活動は

**答** 19人が登録し、イベントなどを行っています

**住みたい・住み続けたい町を**

**問** 移住コーディネーターの現在の活動状況を教えてください。

**町長** 現在、移住コーディネーターの方々は19人が登録されており、移住セミナーや移住モニターツアー、移住コーディネーター養成セミナーの開催、移住イベントへの参加、移住希望者の相談対応などの活動を行っています。

**問** 今後、移住コーディネーター連絡協議会の中で、3つの部会に分かれて活動していくとお聞きしましたが、どのように変わるのでしょうか。

**企画政策課長** 移住セミナーや移住相談、PRといった活動ごとに部会をつくり、移住コーディネーターの皆さんが活躍しやすい仕組みづくりについて、連絡協議会の中で話し合いが進んでいます。

**問** 現在の空き家バンクの状況をお聞かせください。

**企画政策課長** 登録件数は未だ少ないものの、相談件数は以前より増えています。



移住しやすい環境を

**問** 他の自治体で行っている移住相談や空き家バンクの窓口を作るといったお考えはないのでしょうか。

**企画政策課長** 様々な先進地視察をしながら、検討していきたいと考えています。

**問** 空き家を自治体、または民間と協力してリフォームする、あるいはリフォームに助成するといったお考えはありますか。

**企画政策課長** CCRRCは地方創生の考え方の中でも、当初からあるもので、本町でも町長が答弁したように、男性、女性、若い人から高齢の方まで、すべての方が活躍できる町を作っていくというのがCCRRCの考えです。本町では、CCRRCに関するハード整備は行っていませんが、全世代活躍という取り組みを進めていくことは肝要であると考えており、今後も研究しながら、移住施策、次の事業を考えてまいりたいと思います。

萩原 宏紀 議員

所要時間 51分



様々な分野で活用していきたいと考えています。

**問** 協力隊の活動場所を選ばれる前提とした待遇面や関わりやすさが重要かと思えます。専門的な高い能力のある人材を確保していくために、その能力に応じて待遇も変えていかなければならず、また関わりやすくするために地域おこし協力隊イ



町の魅力を知ってもらうために

行橋 千春 議員

所要時間 58分



**企画政策課長** 空き家問題を解決するためにも、先進事例を参考にし、今後研究してまいりたいと思います。

**問** 本町の現在の移住・定住の施策を考えた時、子育て支援の若い世代の施策が多いと思いますが、近隣で行っているCCRRC構想などはお考えにはならないでしょうか。



すべての方が活躍できる町を

**企画政策課長** 地域おこし協力隊インターンやお試し地域おこし協力隊の制度を活用するためには、受皿となる地域おこし協力隊の力が重要になります。現在、活動している協力隊のお力も借りながら、参加者が持つ協力隊のイメージと実際の本町のイメージとのミスマッチを防げるように、これらの制度の活用も検討してまいります。

## 安全に魅力を伝えるには

**問** 本町のSNS活用について、SNSは非常に有用な側面もある反面、炎上や情報漏えいなどのリスクも多分に含んでいます。リスク管理はどのように行っていますか。

**企画政策課長** 不適切な表現がないか各課で確認し、投稿しています。

**問** 町長のSNSアカウントをつくり町の情報を発信する予定は。

**町長** 今の時代、SNSでの情報発信というのは抜きにしては語れない部分が多いということも十分認識していますが、まずは広報紙による情報発信を考えています。

**問** 本町に移住してきてくれた方々や住んでおられる方々が多古町にずっと住み続けたいと思うには、生活していくのに便利、利便性を考えたいと思います。医療福祉の環境と公共交通の充実化とか。公共交通とは、ビジネスカーインフラかと考えた時に、どちらだとお考えになりますか。

**企画政策課長** 行政的にいえば、インフラだと考えています。しかしながら現在、公共交通の置かれている状況は非常に厳しいところです。町民の皆様の利便性を考えて、様々な方法を検討しながら、公共交通の維持に努めてまいります。

※CCRRC構想とは…高齢者が健康で元気なうちに地方へ移住し、地域との交流に参加するなど活発に生活することで健康長寿を目指そうとする取り組みのこと。